

21 世紀の生命を育む

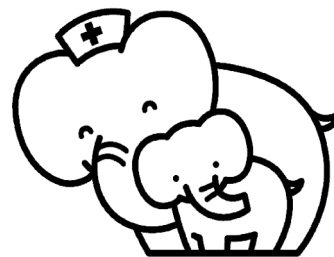
はしもと小児科

〒954-0112 見附市上新田町 449-7

TEL 0258-61-2400, 予約専用 61-2401, FAX 61-2402

<http://www.mynet.ne.jp/hasimoto/>

院長 橋本尚士：新潟大学医学博士，日本小児科学会認定小児科専門医，日本アレルギー学会認定アレルギー専門医
日本小児感染症学会推薦インфекションコントロールドクター（感染制御医：ICD）



ぞうさん通信 2010. 8. 10, 8. 17

はしもと小児科ホームページ <http://www.mynet.ne.jp/hasimoto/>

メールマガジン「ぞうさん通信」発刊中。上記 HP よりお申し込みください。

流行性耳下腺炎について最近の話題

2010年春先から，当院周辺では流行性耳下腺炎（おたふくかぜ，ムンプス）の患者発生が続いています。日本では，流行性耳下腺炎ワクチンは任意接種のため接種率が30%程度と低く，4年ごとに流しています。流行性耳下腺炎について，最近の話題は以下の3つです。

(1) アメリカ合衆国では2007年に，流行性耳下腺炎の休園休校期間を9日間から5日間に短縮しました。最近の分子疫学研究から，耳下腺炎発症後4日を経過すると唾液中のウイルス量が急速に減少し，耳下腺腫脹後5日を超えると感染するリスクが低下します。日本で行われた研究でも，耳下腺腫脹後6日を過ぎればウイルスは分離されませんでした。

(2) 難聴は流行性耳下腺炎の神経合併症の1つで，予後が不良です。ウイルスが内耳有毛細胞に感染して発症します。多くは，片側のみが障害を受けます。難聴の頻度は，以前は20000人に1人とと言われていましたが，最近の日本の調査では400-700人に1人と比較的頻度の高い合併症であることが示されています。小児では耳下腺腫脹が治ってから難聴に気づくことが多く，その時点で聴力の回復は困難であり，補聴器により聴力を高めることも不可能です。

(3) 流行性耳下腺炎の神経合併症としては無菌性髄膜炎が有名ですが，脳炎も起こります。流行性耳下腺炎による脳炎では，中脳水道が狭窄し水頭症を合併します。発症頻度は400-5000人に1人です。最近行われた日本における脳炎・脳症全国調査によると，流行性耳下腺炎による脳炎の割合は，脳炎・脳症全体の3%でした。インフルエンザ脳症（23%），HHV-6, 7（突発性発疹）脳症（10%），ロタウイルス関連脳症（4%）に次ぎ，マイコプラズマ脳炎・脳症（3%）とともに第4位でした。流行性耳下腺炎による脳炎では発症時にMRI上の異常は認めにくいですが，脳波異常の頻度が高いという特徴があります。死亡率が7%，後遺症率が28%と予後不良です。

流行性耳下腺炎はワクチンにより予防が可能な疾患です。日本における出生数が100万人/年，ワクチン接種率が30%，感染して発症する率が70%と仮定すると，少なく見積もって難聴は約500人/年，脳炎は約80人/年発症しています。これらの合併症を防ぐ唯一の方法はワクチン接種です。

流行性耳下腺炎ワクチンの定期接種化について調査したところ、先進国では実施が26カ国、未実施が1カ国、新興国では実施が25カ国、未実施が2カ国、途上国では実施が58カ国、未実施が30カ国、極貧国では実施が0カ国、未実施が50カ国でした。先進国で未実施の1カ国は「日本」です。定期接種を実施している109カ月のうち、89カ国は2回接種を、20カ国が1回接種を行っています。

本文をお読みいただければ、日本で流行性耳下腺炎ワクチンが定期接種化されていないことが、いかに異常なことであるかご理解いただけると思います。

是非、流行性耳下腺炎ワクチンの接種を受けてください。

(日本小児保健協会予防接種・感染症委員会「予防接種レター、第46号」より引用抜粋)

ぞうさん通信2010.8.10, 8.17, 見附市上新田町449-7 はしもと小児科, 院長 橋本尚士
新潟大学医学博士, 日本小児科学会認定小児科専門医. 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医
日本小児感染症学会推薦インфекションコントロールドクター (感染制御医:ICD)

(* お盆休診のため, 2010.8.10, 8.17の合併号です.)